

音楽科

音楽科（器楽）について、以下の観点に基づき、発行社ごとに教科書を調査・研究した。

選定の観点

- 1 音楽科の目標を達成するために、基礎的・基本的な知識・技能等の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。
- 2 思考力・判断力・表現力等を育成し、言語活動の充実を図るための配慮がされていること。
- 3 興味・関心や生活経験に目を向けた題材や内容構成で、生徒が意欲的・主体的に学ぶことができるよう、問題解決的な学習活動が展開しやすいこと。
- 4 音色の美しさや演奏の楽しさに触れるため、我が国および諸外国における弦楽器・管楽器・打楽器等の様々な楽曲が古典から現代にわたってバランスよく取り上げられるなど、豊かな情操を養うことができるよう教材が工夫されていること。
- 5 「表現」及び「鑑賞」に関する内容相互の関連が図られるとともに、授業時数に照らして、全体の分量や難易度が適切であること。
- 6 多様な音楽のよさや美しさを味わうことを通して、我が国や諸外国の音楽文化の豊かさに気づき、尊重する態度の育成を図るとともに、和楽器を含めた伝統音楽への関心を育てるよう配慮されていること。
- 7 生涯にわたって学び続ける態度を育めるよう、探究意欲を高める工夫や、学んだことを活用して、さらに発展的な学習につながるよう考慮されていること。
- 8 題材構成の系統性・発展性や他教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、他校種、また、環境教育、情報教育、生き方探究（キャリア）教育等の教育課題との関連に配慮がされていること。
- 9 基本的人権の尊重及び道徳性の育成の視点からの内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。
- 10 表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成などについて配慮がされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。

音楽科（器楽）

調査研究の結果の概要

■教育出版「中学音楽 音楽のおくりもの」

楽曲ごとに「共通事項」を手がかりとした演奏の目標が示されるとともに、「紹介文を書いてみよう」として、楽器の特徴等を言葉で表現する学習が工夫されるなど、言語活動の展開に向けたヒントが随所になされており、学習を深めるための効果的な手立てが豊富である。また、奏法や楽器の写真が見やすくわかりやすいよう大きく豊富に掲載されることで、学校で学習しない楽器も自分で読みながら学習することができるよう工夫されるなど、主体的な学習、問題解決的な学習活動の展開が十分に図られている。

コードネームについて、ギターだけでなくキーボードの表も示されることで、実際の音を確認しやすく、また、押さえる指の写真が用いられており、基礎的な技能の定着に加え、発展的な学習活動に展開しやすい。また、箏や三味線などの和楽器の奏法についても、写真を使って解説され、基礎的な技能の理解を助ける工夫がなされており、特徴的である。

リコーダーについては、ソプラノ・アルト両方での演奏が可能となっており、楽曲ごとに必要な運指が図示されるなど、生徒が基礎的な奏法を身につけられるよう工夫されている。

和楽器について、全ページの4割以上が割かれ、伝統音楽への関心を育てるため、和楽器を使った合奏曲を多く紹介し、写真を用いてわかりやすく説明するとともに、アンサンブルにも和楽器を用いた曲を多く取り上げるなど、初めて和楽器に接する生徒が興味・関心を持ちやすくするための工夫も優れている。

「選定の視点」の評価結果：◎7 ○18 △0

■教育芸術社「中学生の器楽」

一般と同様、「音楽学習MAP」や目次において、学習内容の全体像や目標が示されているとともに、各教材に学習目標と具体的な学習活動の手がかりとなる「共通事項」が記載されるなど、学習の目標と見通しがわかりやすい。また、楽曲ごとに「共通事項」を手がかりとした演奏の目標が提示されるとともに、奏法により楽器の音色の違いを感受することや、バチの持ち方で音色が変化することなどの視点を示すことにより、言語活動を促す工夫がなされている。

また、楽器の特性や奏法にとどまらず、それら楽器の音や音楽の持つ特徴に関するQ&Aやコラム等が随所に盛り込まれ、主体的な学習、問題解決的な学習の展開が図られている。

リコーダーは、中学校で初めて学習するアルトリコーダーを段階的に学習できるとともに、小单元ごとに新しい運指がまとめて示されるなど、必要に応じて生徒が自分で調べることができ、主体的な学習につながるよう工夫されている。

和楽器について、伝統音楽への関心を育てるため、単に楽器の特性や奏法にとどまらず、それら楽器の音や特徴に関する内容（よく響く場所等）を取り上げるとともに、箏の楽譜は、古来の縦書きの楽譜が重視されており、伝統を感じさせるだけでなく、五線の楽譜に対する苦手意識がある生徒にとっても取り組みやすい配慮である。また、和楽器の演奏を通して身に付けさせたい

礼節を重んじる心や他者を思いやる心に関して記述されていることは特徴的である。
打楽器のひとつにラテン楽器を取り上げ、楽曲の幅に広がりを持たせている。

「選定の視点」の評価結果：◎8 ○17 △0

※詳細の結果・データは、観点別資料及び観点別・視点別評価資料に記載。

観点別資料 一音楽科（器楽）一

【選定の観点1】

音楽科の目標を達成するために、基礎的・基本的な知識・技能等の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。

発行社名	
17 教出	27 教芸
<p>○学習の視点である「共通事項」が、楽曲ごとに簡潔に示されるとともに、「演奏の仕方を身につけよう」「合わせて演奏しよう」「名曲旋律集」の3段階で器楽に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけるための構成が工夫されている。</p> <p>○リコーダーはソプラノ・アルト両方での演奏が可能で、運指が必要に応じて図示されるなど、生徒が様々な楽器の特徴とその基礎的な奏法を身につけられるよう工夫されている。</p> <p>○コードネームについて、ギターだけでなくキーボードの表も示されており、実際の音を確認しやすく、また、押さえる指の写真が用いられることは、基礎的・基本的な技能の定着に向け、効果的であり、優れている。</p> <p>○和楽器の奏法が写真等を使って解説され、写真の大きさや角度にも配慮されるなど、理解しやすいよう工夫され、優れている。</p>	<p>○「音楽学習 MAP」や目次において、学習内容の全体像や目標がわかりやすく示されており、また、各教材のページにも目標と学習する際の視点「共通事項」が示されるなど、学習のめあてと見通しがわかりやすく、優れている。</p> <p>○リコーダーは、中学校で初めて学習するアルトリコーダーを段階的に学習できるとともに、小单元ごとに新しい運指がまとめて示されるなど、必要に応じて生徒が自分で調べることができ、主体的な学習につながるよう工夫されている。</p> <p>○巻末に、諸記号や運指・コードネーム等についてまとめられており、一般と同様のレイアウトがシンプルでわかりやすく、生徒自ら必要な記号を調べて学習することができるなど、基礎的・基本的な知識の定着に、効果的で優れている。</p> <p>○和楽器の奏法が写真等を使って解説されるとともに、楽器の編成が一覧にまとめられるなど、基礎的な奏法や知識の定着に向けた工夫が効果的である。</p>

【選定の観点2】

思考力・判断力・表現力等を育成し、言語活動の充実を図るための配慮がされていること。

発行社名	
17 教出	27 教芸
<p>○楽曲ごとに「共通事項」を手がかりとした演奏の目標が示されている。</p> <p>○楽器の特徴等を言葉で表現する学習をはじめ、言語活動の展開に向けたヒントとなる具体的な工夫が随所になされており、学習を深めることに効果的で優れている。</p> <p>○旋律の役割や強弱の変化による音楽表現のちがいを解説するなど、生徒の思考力・判断力等の育成に向けた工夫がされている。</p> <p>○「Let's try」において、学習の目標が簡潔に示され、また具体的な奏法についてのヒントが書かれており、グループ演奏する際に言語活動を展開する手だてとなっている。</p>	<p>○楽曲ごとに「共通事項」を手がかりとした演奏の目標が具体的に示され、それぞれの教材の学習目的がわかりやすく、思考力・表現力を高める活動のヒントとなり、優れている。</p> <p>○奏法により楽器の音色のちがいを感受することや、パチの持ち方で音色が変化することなどの視点を示すことにより、言語活動を促す工夫がされている。</p> <p>○声部の役割や曲想の変化による音楽表現のちがいを解説するなど、生徒の思考力・判断力等の育成に向けた工夫がされている。</p> <p>○「アンサンブル」において、その楽曲を演奏する上でのヒントが具体的に示されており、グループ演奏でどのように創意工夫するかについての言語活動を展開しやすい。</p>

【選定の観点3】

興味・関心や生活経験に目を向けた題材や内容構成で、生徒が意欲的・主体的に学ぶことができるよう、問題解決的な学習活動が展開しやすいこと。

発行社名	
17 教出	27 教芸
<p>○現役奏者のメッセージや体験談が記載されるなど、楽器の魅力を感じ、興味・関心をもって学習に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○「もののけ姫」「ライディーン」等のポピュラー音楽を取り入れることにより、生徒の興味・関心を高めている。</p> <p>○奏法や楽器の写真が大きく豊富に掲載され、非常に見やすくわかりやすく、学校で学習しない楽器も自分で読みながら学習することができるよう工夫され、主体的な学びから問題解決的な学習活動への展開が充実しており、優れている。</p> <p>○楽器演奏の基礎であるリコーダーの学習ページでは、楽曲ごとに新しい運指が示され、吹き出して学習のヒントが示されるなど、生徒が主体的に学ぶ助けになっている。</p>	<p>○演奏家のコメントで様々な楽器を紹介するとともに、奏法の写真を豊富に掲載するなど、生徒の学習意欲を喚起する工夫がされている。</p> <p>○「美女と野獣」「トリスターザ」等のポピュラー音楽を取り入れ、生徒が興味をもって学習できるよう工夫されている。</p> <p>○Q&Aや「和楽器こぼれ話」「音を聴いて確かめよう」などのコラムが随所に盛り込まれ、主体的な学習から問題解決的な学習につなげる工夫が優れている。</p>

【選定の観点4】

音色の美しさや演奏の楽しさに触れるため、我が国及び諸外国における弦楽器・管楽器・打楽器等の様々な楽曲が古典から現代にわたってバランス良く取り上げられるなど、豊かな情操を養うことができるよう教材が工夫されていること。

発行社名	
17 教出	27 教芸
<p>○弦楽器は箏・三味線・ギター、管楽器はリコーダー・尺八・篠笛、打楽器は和太鼓が取り上げられている。基本的な奏法を学ぶ練習曲に加え、歌い継がれている日本の名曲、諸外国のクラシックからポピュラーまで幅広い楽曲が掲載され、様々な音色や演奏に触れることができるよう配慮されている。</p> <p>○古典から現代にわたって、独奏曲からアンサンブル曲までがバランスよく取り上げられ、生徒が興味をもって、音色の美しさや演奏の楽しさを感じることができるよう配慮されている。</p> <p>○特に和楽器は全ページ4割以上で取り扱われているのが、特徴的である。</p>	<p>○弦楽器は箏・三味線・ギター、管楽器はリコーダー・尺八・篠笛、打楽器は和太鼓の他にラテン楽器が取り上げられていることが、特徴的である。基本的な奏法を学ぶ練習曲に加え、歌い継がれている日本の名曲、諸外国のポピュラーや現代作曲家の曲まで幅広い楽曲が充実しており、様々な音色や演奏に触れることができるよう配慮されており、優れている。</p> <p>○また、ピアノ、鍵盤ハーモニカ、ビブラフォンなど鍵盤楽器が、アンサンブルの中で取り上げられ、様々な楽器を使った幅広い曲の中から選曲し、豊かな情操を養うことができるよう配慮されている。</p>

【選定の観点5】

「表現」及び「鑑賞」に関する内容相互の関連が図られるとともに、授業時数に照らして、全体の分量や難易度が適切であること。

発行社名	
17 教出	27 教芸
<p>○「名曲旋律集」において、「荒城の月」など歌唱教材として取り扱った楽曲が、器楽曲としても取り上げられ、関連が図られている。</p> <p>○箏による「荒城の月」の前奏創作活動が取り上げられており、楽器の指導と創作活動を関連付けて行うことができる。</p> <p>○学習する楽器ごとに、その楽器の音色の良さや特徴を感じ取ることができる鑑賞曲が紹介されるなど、表現と鑑賞を関連付けた学習の展開がよく工夫され、優れている。</p> <p>○三味線を演奏する表現学習において、鑑賞活動の題材である長唄「勸進帳」の一部が取り上げられるなど、実際に演奏を行うことで鑑賞をより深められるよう関連が図られている。</p> <p>○アルトリコーダーを使わない学校においても、ソプラノリコーダーで演奏が可能な楽曲が取り上げられるなど、授業時数に応じて弾力的に教材選択ができるよう工夫がなされている。</p>	<p>○「名曲スケッチ」において、有名な鑑賞曲の一部を演奏することにより、器楽と鑑賞の関連付けが図られている。</p> <p>○箏による「さくらさくら」の前奏創作活動が取り上げられており、楽器の指導と創作を関連付けて行うことができる。</p> <p>○「Ensemble seminar」では、学習進度や生徒の習得状況にあわせて「Step1」「Step2」のどちらまで学習するか選択できるようになっており、柔軟に指導時間を設定できるよう工夫されている。</p>

【選定の観点6】

多様な音楽のよさや美しさを味わうことを通して、我が国や諸外国の音楽文化の豊かさに気づき、尊重する態度の育成を図るとともに、和楽器を含めた伝統音楽への関心を育てるよう配慮されていること。

発行社名	
17 教出	27 教芸
<p>○日本の歌い継がれる名曲や諸外国のクラシックからポピュラーまで、様々な楽曲を取り上げ、演奏することを通して、多様な音楽の美しさや豊かさを味わうことができるよう配慮されている。</p> <p>○伝統音楽への関心を育てるために、和楽器を使った合奏曲を多く紹介し、写真を用いてわかりやすく説明するなど、初めて和楽器に接する生徒が興味・関心を持ちやすくするための工夫が優れている。</p>	<p>○古典から現代にわたり、大小様々な編成のアンサンブル曲や日本の伝統音楽、その手法を用いた曲を掲載し、多彩な音楽の美しさや豊かさを味わうことができるよう配慮されている。特にラテン打楽器が扱われていることは特徴的であり、充実している。</p> <p>○箏の楽譜は、古来の縦書きの楽譜が重視されており、日本の伝統を感じさせるだけでなく、五線の楽譜に対する苦手意識がある生徒にとって取り組みやすいよう配慮されている。また、伝統音楽への関心を育てるため、単に楽器の特性や奏法にとどまらず、それら楽器の音や音楽の持つ特徴に関する内容（よく響く場所等）を取り上げており、優れている。</p> <p>○篠笛・尺八などの難易度の高い楽器は、2音だけで簡単に演奏できる曲を取り上げ、成功体験を持たせることで、伝統音楽への関心を高める工夫がなされている。</p>

【選定の観点7】

生涯にわたって学び続ける態度を育めるよう、探究意欲を高める工夫や、学んだことを活用して、さらに発展的な学習につながるよう考慮されていること。

発行社名	
17 教出	27 教芸
<p>○日本の音楽やポピュラーソングに加え、「名曲旋律集」として、日常生活でも良く耳にするような幅広い楽曲との出会いとなるメロディーを紹介することで、将来にわたり音楽に触れ、学び続けようとする意識付けを図っている。</p> <p>○難易度の高いアンサンブル曲が発展的な課題として取り上げられるとともに、音楽の創作現場に触れる、横笛を手作りするといった、演奏以外の発展的な学習内容も盛り込むなど、探究意欲を高める工夫がされている。</p> <p>○一つの楽器に対して、基礎的な楽曲と少し難易度の高い楽曲を同時に示すことで、生徒の習得状況に応じて発展的な学習の展開までつなげやすい。</p>	<p>○日本の音楽やポピュラーソングに加え、「名曲スケッチ」として、日常生活でもよく耳にするような幅広い楽曲との出会いとなるメロディーを紹介することで、将来にわたり音楽に触れ、学び続けようとする意識付けを図っている。</p> <p>○クラシックからポピュラー、日本の伝統音楽、諸外国の民族音楽など、様々なジャンルから教材が選曲されており、多用な音楽に触れることで、探究意欲を高め、さらに発展的な学習や生涯にわたって学び続けるきっかけとなるよう工夫されている。</p>

【選定の観点8】

題材構成の系統性・発展性や他教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、他校種、また、環境教育、情報教育、生き方探究（キャリア）教育等の教育課題との関連に配慮がされていること。

発行社名	
17 教出	27 教芸
<p>○基礎的な技能の段階を踏んだ適切な教材配列であり、発展的な内容として、様々な楽器の組み合わせによるアンサンブル（合奏）が取り上げられるとともに、文化祭等の学校行事への活用も図られている。</p> <p>○ソプラノリコーダーでも演奏できるよう配慮されていることに加え、初歩的な楽曲が多く取り上げられており、題材構成の系統性において、小学校でリコーダーを苦手としていた生徒が新たな気持ちでアルトリコーダーに取り組む際の助けとなる。</p> <p>○「制作現場を訪ねて」の学習活動では、生徒一人一人がその能力を伸ばし、将来への夢をもつ手がかりになるよう生き方探究（キャリア）教育の視点にも配慮されている。</p>	<p>○基礎的な技能の段階を踏んだ適切な教材配列で、楽器ごとに発展的な課題が設定されるとともに、学校行事への活用も図られている。</p> <p>○和太鼓や鍵盤ハーモニカ、手拍子を使ったアンサンブルが取り上げられ、小学校音楽との関連について十分に意識されている。</p> <p>○「調べてみよう」として、自分たちの住んでいる地域の伝統音楽を外国の人に紹介できるよう調べる学習を通して、地元の伝統音楽に関心を持つとともに、情報教育、生き方探究（キャリア）教育、環境教育との関連を図ることができるよう工夫されている。</p>

【選定の観点9】

基本的人権の尊重及び道徳性の育成の視点からの内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。

発行社名	
17 教出	27 教芸
<p>○箏を使ってポピュラー音楽を演奏することにより、日本の伝統音楽への意識付けを図るとともに、外国の音楽の良さや美しさを感じられる工夫がなされている。</p> <p>○東日本大震災の復興記念事業から生まれた作品である和太鼓「千の海響 望の章」を取り上げ、生命尊重や環境保全等と関連付けられており、優れている。</p> <p>○創作活動やアンサンブル活動を通して、協力して作品をつくり上げることや、団体で演奏することを通じて、人権教育や道徳教育との関連が図られている。</p>	<p>○和楽器を教材として扱い、日本の伝統音楽への意識付けを図るとともに、リコーダーやギター、ラテン打楽器を使って、諸外国の音楽の良さや美しさを感じられる工夫がなされている。</p> <p>○和楽器の演奏にあたり、演奏を通して身に付けさせたい礼節を重んじる心や他者を思いやる心に関して記述されており、優れている。</p> <p>○創作活動やアンサンブル活動を通して、協力して作品をつくり上げることや、団体で演奏することを通じて、人権教育や道徳教育との関連が図られている。</p>

【選定の観点10】

表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成などについて配慮がされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。

発行社名	
17 教出	27 教芸
<p>○文字や写真が大きくて見やすく、ユニバーサルデザインに配慮されている。</p> <p>○目次の色分けが楽器ごとに統一される、インデックスが効果的に用いられるなど、使いやすく見やすい。写真の数や撮影の角度も支援が必要な生徒にわかりやすい。</p> <p>○「体で打楽器」「ジョイフルコンビネーション」などの身体を使って表現する曲を扱っており、通常の楽器を演奏することにハンディがある生徒も楽しみながら演奏できるよう配慮されている。</p> <p>○再生紙と植物油インキを使用し、造本も丈夫である。</p>	<p>○文字の大きさや色使いに加え、ページのレイアウトもシンプルで無駄な装飾がなく、ユニバーサルデザインに配慮されている。特別支援教育の配慮も感じられる。</p> <p>○一般と器楽の表紙の色が一見して区別できるよう工夫されるなど、支援の必要な生徒をはじめ、すべての生徒への配慮がなされている。</p> <p>○和太鼓や鍵盤ハーモニカ、手拍子を使ったアンサンブルが多く取り上げられており、リコーダーなど通常の楽器を演奏することにハンディがある生徒も楽しみながら演奏することができるよう配慮されている。</p> <p>○再生紙を使用し、造本も丈夫である。</p>

音楽科(器楽)

観点別・視点別評価

「◎」優れている 「○」標準的 「△」やや劣る

選定の柱		選定の観点		選定の視点		教育出版	教育芸術社
1	基礎的・基本的な知識・技能	1	音楽科の目標を達成するために、基礎的・基本的な知識・技能等の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。	1	学習目標や共通事項の明示	○	◎
				2	効果的な写真やイラスト、図、表など	◎	◎
				3	楽典や運指・コードネームの記述	◎	○
				4	楽器の名称や基礎的奏法の記述	○	○
2	思考力・判断力・表現力等	2	思考力・判断力・表現力等を育成し、言語活動の充実を図るための配慮がされていること。	1	共通事項と学習内容の明示と関連付け	○	◎
4				言語活動の充実	◎	○	
3	学習意欲	3	興味・関心や生活経験に目を向けた題材や内容構成で、生徒が意欲的・主体的に学ぶことができるよう、問題解決的な学習活動が展開しやすいこと。	1	主体的な学習を促す工夫	◎	○
5	生涯にわたって学び続ける力 (問題解決的な学習、探究能力の充実)			2	問題解決的な学習活動の展開	○	◎
6	各教科独自の観点・他教科等との関連	4	音色の美しさや演奏の楽しさに触れるため、我が国及び諸外国における弦楽器・管楽器・打楽器等の様々な楽曲が古典から現代にわたってバランスよく取り上げられるなど、豊かな情操を養うことができるよう教材が工夫されていること。	1	管楽器・弦楽器・打楽器の教材の充実	○	◎
6	各教科独自の観点・他教科等との関連	5	「表現」及び「鑑賞」に関する内容相互の関連が図られるとともに、授業時数に照らして、全体の分量や難易度が適切であること。	1	表現活動と鑑賞活動の関連	◎	○
4				言語活動の充実	2	弾力的な教材選択	○
6	各教科独自の観点・他教科等との関連	6	多様な音楽のよさや美しさを味わうことを通して、我が国や諸外国の音楽文化の豊かさに気づき、尊重する態度の育成を図るとともに、和楽器を含めた伝統音楽への関心を育てるよう配慮されていること。	1	諸外国の楽曲の取扱い	○	◎
5	生涯にわたって学び続ける力 (問題解決的な学習、探究能力の充実)	7	生涯にわたって学び続ける態度を育めるよう、探究意欲を高める工夫や、学んだことを活用して、さらに発展的な学習につながるよう考慮されていること。	2	和楽器に関わる教材	◎	◎
				1	生活と音楽との関連	○	○
				2	探究活動へつながる工夫	○	○
6	各教科独自の観点・他教科等との関連	8	題材構成の系統性・発展性や他教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、他校種、また、環境教育、情報教育、生き方探究(キャリア)教育等の教育課題との関連に配慮がされていること。	3	発展的な学習活動へつながる工夫	○	○
				1	題材構成や発展性を配慮した教材配列	○	○
				2	他校種との関連	○	○
7	基本的人権の尊重・道徳性の育成	9	基本的人権の尊重及び道徳性の育成の視点からの内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。	3	他教科や行事等との関連	○	○
				1	人権教育の推進	○	◎
6	各教科独自の観点・他教科等との関連	10	表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成などについて配慮がされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。	2	道徳教育の推進	◎	○
				1	文字や楽譜、写真、図表、挿絵の色や大きさ等	○	○
7	基本的人権の尊重・道徳性の育成			2	装丁や紙面のレイアウト	○	○
				3	堅牢な造本	○	○
				4	ユニバーサルデザインの視点	○	○